

キリスト教保育

年主題 **ともに**

論説
絵本の力、ことばの力
— 子どもの心を育む
大切なもの2

吉井康文

私たちのキリスト教保育
山本 愛

礼拝のお話
赤田直樹 馬淵めぐみ



2026 MAR. **3**

こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。

聖書 口語訳聖書 エペソへの手紙5章1～2

聖書はしばしば私たちの生き方を「歩み」という言葉でとらえ、表現する。エフェソの信徒への手紙の5章でも、この「歩む」という表現が繰り返されている。2節に「愛によって歩みなさい」、8節に「光の子として歩みなさい」、15節に「賢い者として、細かく気を配って歩みなさい」と言う。

私たちの歩みは愛の中を歩む歩みでなければならない。そして、その歩みは光の子らしい歩みでなければならない。さらにその歩みには、賢い者として、細かく気を配っていなければならない。それが、聖書が私たちに勧める歩みである。

私たちの歩みは、「愛のうちを歩む」歩みであるべきだと言う。だが、その愛とは何か。「愛のうちを歩め」と言われるとき、まず、私たちの心に浮かぶことは、私たちの心が愛にあふれ、愛の行為をなしつつ生きていく、そのような生き方である。しかし、ここで言われているのは、そのようなことではない。まず、そのような誤解を捨てなければならない。むしろ私たちは生まれながらそうした愛を持っていないという自覚、そうした愛を行えないという認識からこそ出発しなければならない。

今月の聖書の言葉は、「愛のうちを歩め」と言っている。その「愛」とは、2節の述べている愛、神の愛なのである。罪人をゆるす愛、背く者を追い求めたもう愛、己を与え尽くして惜しまない愛、そのような愛なのである。それゆえに、「愛のうちを歩め」とは、神のそのようなゆるし、恵みに支えられて歩めということであり、そのような愛に全てを任せて生きよということである。

私たちは歩く。しかし、それはあたかも、歩みはじめた幼子が、親の愛のまなざしの中で手を引かれつつ歩む歩みのようなものである。神に見守られて、その支えの中で歩む。1節の言うところであろう。

しっかりと主イエスを仰ぎみつつ、一步一步を確実に踏みしめて進もうではないか。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1975年「キリスト教保育」誌3月号より

キリスト教保育

第684号3月号



年主題 ともに

幼子とともにキリストへ	2
〈巻頭言〉 閉じないで開き、 繋がっていくことの意味	3
〈論議〉 絵本の力、ことばの力 —子どもの心を育む大切なもの②—	4
松山洋平	
〈小論〉 地域と共にする子育て②	6
吉井康文	
聖書にきく・お話 黒米理恵	14
海野展由	
18	
〔カリキュラム〕	
月のねがい表	21
心にとめて 児玉純子	22
実践報告 一麦保育園	26
実践からの学び 高寺こずえ	31
心にとめて 橋本礼子	32
実践報告 仁川幼稚園	34
実践からの学び 寺田千栄	40
絵本のとびら 池口ありさ	41

〈連載〉 私たちのキリスト教保育 山本 愛	42
〈連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子	46
私たちの園では 松村幹子	50
礼拝のお話 赤田直樹 馬渕めぐみ	55
目福口福耳福 宮崎奈津子	69
図書紹介 久世そらち	70
風 佐藤 徹 編集子 西嶋佳弘	72
連盟だより	73
2025年度総目録	74
2026年度 年主題 年主題聖句	77
聖句・カリキュラム表	78
カット 中敏治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり 松成真理子 菰田とみ子 表紙絵 田中横子	

